

松禪寺報

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

<https://syozen.com>

<https://www.facebook.com/syozenji>

発行日 令和 5 年 9 月 25 日

第 105 号

人々が多いが 彼岸に達する人は少ない
他の多くの人々は こなたの岸で迷っている

（法句経）

仏教では煩惱に満ちあふれた世界を「此岸」、つまり、「こちら側の岸」といい、悟りの境地である涅槃を「彼岸」、「あちら側の岸」と言います。「此岸」と「彼岸」を隔てているのが「三途の川」です。

「三途の川」は、橋を歩くか、渡し船に乗るか、泳ぐかいろいろあるようですが、いずれも煩惱の世界と悟りの世界を隔てている深くて厳しい川のようにです。

彼岸には、真東から日が昇り、真西に日が沈み、一直線上に結ばれます。東は薬師如来の東方瑠璃光の世界で、西は阿弥陀如来の極楽浄土の世界です。お彼岸は、「彼岸」と「此岸」が近くなる先祖供



養の一週間となります。この年に 2 回しかない絶好の機会が彼岸です。ぜひご先祖様に手を合わせて、想いを伝えましょう。

「感謝」

作詞・北山修

長い橋を 渡る時は
あの人は 帰らぬ
流れ星の ふりそそぐ
白い夜の舟で
消える御霊見送りながら
心からの感謝を

深い川を 越えたならば
わたくしも 戻らぬ
だから今が 大事すぎて
幕が降りるまでは
恨みつらみ 語りつくして
心からの感謝を

恐がらないで 顔を上げて
見守っているから
陽はまた昇る 昨日のことは
振り返らないで
次第次第 うすれる意識
さらば 愛しき者よ





▲施餓鬼棚。「三界萬靈十方至聖」の位牌の前に、山と海の五味の珍味をお供えます。



▲皆さんの願いと祈りを七夕に

一月遅れの七夕飾りも併せて行いました

も供養する施餓鬼会の意義も忘れず伝えていきたいものです。

猛暑が連日続く今年の夏、そんななか施餓鬼会を8月7日（月曜日）午前10時より執り行いました。法要には瑞泉寺住職、副住職様（和田山町）、楊岐院様（豊岡市）、東源寺様（夜久野町）、清太院様（夜久野町）の和尚様方5人、住職と兄（徒弟）が出頭して厳修いたしました。今年は10霊位の初盆施餓鬼のほか、檀信徒各家の先祖供養、栗尾養鶏組合の鶏魂供養を例年どおり行いました。扇風機しかない本堂で皆さん汗びっしょりだったと思いますが、熱中症予防にと参拝者全員にペットボトル茶を差し上げました。

初盆霊位と有縁無縁の三界の万霊に供養しました



▲境内の供養塔

いろいろな話に花が咲いたことでしょう。生前の感謝や安らかな成仏を祈る、その気持ちを大切にしたいものです。

盆の8月13日と16日、松禪寺境内の灯笼や供養塔のほか、松禪寺霊園でローソクを灯しています。雨降りで灯せない年もありました。今年は何とか点灯することができました。暦の上では秋、爽やかな風がそよぐなか：と言いたいところですが、台風の通過などあつて、蒸し暑いお盆でした。亡くなった親や先祖を思う心を大切にするお盆です。皆さまのお家でもさまざまなお盆を過ごされたかと思えます。家族そろってお墓に参り、久しぶりに賑やかな食卓を囲んで、



▲松禪寺霊園

猛暑のなか汗を流しながら施餓鬼会を営みました

迎火や父の佛母の顔

おもかげ

（白雄）



▲本堂裏の斜面の草刈りは難作業です

猛暑の境内掃除 お疲れさまでした

お盆も間近に迫った7月30日（日）、今年2回目となる境内掃除を行いました。幸いに好天に恵まれ、午前8時から10時までの2時間、草刈りなどの作業に精を出して頂きました。

今回協力してくださったのは、総代（責任役員）さん6人をはじめ、上山根、下山根、貝田、平田、中路、榎谷の各評議員さん6名と有志5名、総勢17名の皆さんでした。お陰様で8月7日の施餓鬼会には、参拝者皆さんを気持ち良く迎ええることができました。有り難うございました。



▲休憩を挟みながら慎重に

境内掃除を終えてからは、総代さん方で施餓鬼会の準備をお手伝いいただきました。本堂中央に卓を設置し、外には施餓鬼棚を組み立てていただきました。

次期妙心寺派管長に山川宗玄老師

妙心寺派現管長小倉宗俊老大師は、今年度末にて管長職辞任の意向を表明されました。それに伴い、次期第 36 代管長が決定いたしましたのでお知らせ申し上げます。任期は令和 6 年 4 月 1 日から令和 10 年 3 月 31 日までの 4 年間で、大本山妙心寺の住職も兼ねられます。

【略歴】^{やまかわ そうげん}山川宗玄老師



昭和 24 年 11 月 25 日生。正眼寺専門道場師家。東京都東久留米市出身。室号は霧隠軒、俗姓は山川。埼玉大学に進学、昭和 49 年理工学部物理学科卒業。昭和 49 年

埼玉県野火止平林寺の白水敬山老大師につき得度。同年、岐阜県美濃加茂市伊深町正眼寺専門道場に掛搭。梶浦逸外、谷耕月両老大師に参じ、のち耕月老大師に嗣法する。昭和 62 年 12 月、和歌山県日高郡由良町興國寺住職に就任。平成 6 年 12 月、正眼寺住職及び同寺専門道場師家、正眼短期大学学長に就任される。

たらちねの生まれぬ前きの月明かり (中川宗淵老師)

「たらちね」とは母のことであり、また父母のことです。したがって「たらちねの生まれぬ前き」とは、父母の生まれる前からということであり、それはさらに祖父母、曾祖父母の生まれる前のように遡ることができません。そのような幾世代もの時を通じて、煌々と山や海や川を照らし続けている「月明かり」を、作者は詠じているのです。

月が輝いているのは今この瞬間のことでもあり、と同時に遠い遠い昔、未だ地球上に生物が存在しない前から、月は太陽に照らされて、その光を地球に投げかけている……。そんな時間の不思議さを感じさせてくれる句です。



だるまき かいさんき と おこな 達磨忌と開山忌を執り行います

来る11月3日、松禪寺では達磨忌と開山忌を営みます。

達磨大師は、禅宗の開祖です。南インドの小国の王子として生まれ、後に出家して菩提達磨と名を改めます。禅を伝えるために中国に渡り、洛陽の少林寺で面壁して坐禅すること9年に及んだと言われています。



次に、松禪寺は来翁祖諱和尚大師らいおうそじゆんを開基として、禅師の師である一笑禅慶和尚大師いっしょうぜんけいを勧請開山かんじようかいさんとして行います。10月20日を忌日として行います。

この達磨忌と開山忌を次のとおり執り行いますので、ぜひお参りください。

とき 11月3日（金／文化の日）
午前8時30分より当番の調理開始
午前11時より法要
正午より齋座

場所 松禪寺本堂

米寿・百寿を迎えられる方々へ

妙心寺派管長様が祝ってくださいます

松禪寺では毎年、その年に米寿や百寿を迎えられる人を対象に、妙心寺派花園会本部へ申請を行い、妙心寺派管長からの寿詞と輪袈裟をいただいております。併せて松禪寺花園会から、寿詞を入れる額縁を贈呈しております。



今年、米寿は昭和11年生まれ（数え年）の方が対象となります。すでに、その対象年齢を過ぎておられる人でも、まだ申請をされ

護持会

会費（後期分）の 納入にご協力願います

9月は松禪寺護持会費の通常会費（後期分）をお願いする月です。松禪寺花園会は檀信徒の皆様方の、護持と発展を願う護持会費で運営しています。各評議員さんより納入の依頼がありますので、何卒ご協力の程よろしくお願ひします。遠方の皆様には郵便局の払込取扱票をお送りいたします。

なお、賛助会員の方々は本年2月に納入依頼済みですので、後期分の請求はございません。

ていなければ、ぜひお知らせください。

また、百寿は数え年で大正13年、満年齢で大正12年の人が対象となります。

お寺では檀信徒皆様の生年月日を、すべて把握できていません。該当者がおられましたら、ぜひお知らせください。



【俳句】

倒れたる稲に雨なほ降注ぐ
粉殻を焼く匂ひする夕べかな
御腕みかひなの長き観音秋彼岸

句集『五月晴』著者・水繩松生

【短歌】

集まりて咲けどもさびしい彼岸花
母を亡くして初めての秋
九十二の父の作りし新米は
どんなブランド米より甘し

太田弘美 水戸市

【川柳】

老若を気分によって使い分け

中島英三 三木市